



”おもてなし”の国、日本——？  
 収容者たちから語られる胸を突く言葉の数々  
 この国の”偽りの共生”が暴かれる

日時 2023年 5月 16日 火  
 19:00~20:30 (18:30開場)

参加費 一般=500円/学生=無料  
 定員22名【要予約】

会場 大竹財団会議室  
 東京都中央区京橋1-1-5セントラルビル11F

主催 一般財団法人 大竹財団

Web予約  
 PC・モバイル共通  
<https://bit.ly/3n27hE1>



# 牛久

監督・撮影・編集 | トーマス・アッシュ

2021年 | 87分 | DCP | 16:9 | 日本 | ドキュメンタリー  
 配給 | 太秦 © Thomas Ash 2021



123124

私はボランティアとして牛久入管を訪れ、収容されている人たちの話を聞き、強い印象を受けました。人権侵害の目撃者として、自分に何が出来るかを考えました。そして、拘束されている人々の証言を証拠として記録し、ここで起きている真実を外の世界に伝えなければならないという使命を感じたのです。

トーマス・アッシュ



## 知られざる不都合な真実、 入管収容所における 人権侵害の実態

在留資格のない人、更新が認められず国外退去を命じられた外国人を“不法滞在者”として強制的に収容している施設が全国に17カ所ある。その一つが茨城県牛久市にある“東日本入国管理センター”、いわゆる「牛久」だ。この施設内には、紛争などにより出身国に帰れず、難民申請をしている人も多くいる。しかし、彼らの声を施設の外に届ける機会はほとんどない。

本年3月の名古屋入国管理局におけるスリランカ出身女性・ウィシュマさんの死亡事件、“入管法”改正案の国会成立断念など、日本の入国管理行政を巡る闇は深まるばかりだ。

本作は、厳しい規制を切り抜け、当事者達の了解を得て、撮影されたものである。

トーマス・アッシュ監督は「隠し撮り」という手法で、面会室で訴える彼らの証言を、記録し続けた。命を守るために祖国を後にした者、家族への思いを馳せる者…。「帰れない」現実を抱えた一人一人の実像。

「まるで刑務所のように」「体じゅう殴られた」、口々に驚きの実情を面会室のアクリル板越しに訴える9人の肉声。長期の強制収容や非人間的な扱いを受け、精神や肉体を蝕まれ、日本という国への信頼や希望を失ってゆく多くの人々。論議を呼ぶ「隠し撮り」で撮影された本映画だが、ここに記録された証言と現実とは、果たして無視できるのだろうか。

世界中から注目された華やかな東京オリンピック開催の影で、露わになる日本の“おもてなしの現実”と“偽りの共生”。「撮影の制約自体を映画的な形式に用い、観客をその現実に参加せざるをえなくすることで、ドキュメンタリーの力を示した」として、2021年9月の韓国DMZ映画祭でアジア部門最優秀賞を受賞した本作が、いよいよ劇場公開。

監督・撮影・編集 | トーマス・アッシュ

カラーグレーディング | オンラインエディター シン・ヘマント

作曲 | 寂空

演奏 | 寂空、こみてつ

タイトルデザイン | 丸古実、山村ジェレミー (デンバク ファノ デザイン東京)

字幕・書き起し | 原田 麻穂、石原 雪子

インバクト プロデューサー | インデヴ・ダニエル

ディストリビューション プロデューサー | 松井至

リサーチ プロデューサー | クレーン・ジョン

2021年 | 87分 | DCP | 16:9 | 日本 | ドキュメンタリー

配給 | 大妻 ©Thomas Ash 2021

www.UshikuFilm.com

@ushikufilm @ushikufilm



123124

上映会のご予約・お問い合わせ

一般財団法人 大竹財団

東京都中央区京橋1-1-5 セントラルビル11階

JR東京駅八重洲中央口から徒歩4分(八重洲地下街24番出口右階段すぐ)、  
東京メトロ京橋駅7出口から徒歩3分、東京メトロ日本橋駅B3出口から徒歩4分

<https://ohdake-foundation.org> 03-3272-3900



Google  
マップ  
QRコード

スマートフォンのQRコードアプリで読み取ると、現在地から会場までのアクセス方法が検索できます

